

知事記者会見の概要

日 時：令和2年4月1日(水) 15:30～16:30

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、健康福祉部長、医療統括監、
防災くらし安心部長、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：19名、テレビカメラ7台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 県内における新型コロナウイルス感染症の確認事例について（第2例）

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

<幹事社：河北・共同・TUY>

☆報告事項

知事

本県2例目となる新型コロナウイルスの感染者が確認されましたので発表いたします。

感染者が確認されたのは、60代の男性で、「かみのやま温泉花明りの宿 月の池」で調理を担当している従業員の方でございます。

3月23日に全身倦怠感、27日に38度台の発熱があり、医療機関の往診を受けました。この時は、抗生物質等の処方がありました。30日に「新型コロナ感染症外来」を受診しまして、肺炎の所見が見られたため、検体を採取して、県衛生研究所でのPCR検査を実施し、この時は陰性でありました。昨日31日、肺炎の診断で、「感染症指定医療機関」に入院しまして、再度PCR検査の結果、陽性と確定しました。現在は、肺炎症状はありますが、病状は安定し、引き続き入院中でございます。

現在、感染経路、濃厚接触者の把握を含めた、詳細な調査を実施しているところであります。発症前1か月以内のこの方の海外や県外への行動歴はありませんが、その他の行動歴は現在確認中でございます。

今後の対応としましては、しっかりと積極的疫学調査を実施し、感染者と濃厚接触のあった方に対し、健康観察を実施するとともに、万が一、症状が出た場合には、速やかに保健所にご連絡いただくよう指導してまいります。

県民の皆様には、午前中の会見でも申し上げたところですが、丁寧な手洗いとマスク着用を含む咳エチケットなどの感染予防にしっかりと取り組んでいただきますようお願いいたします。また、当面の間、県外との不要不急の往来はお控えくださるようお願いいたします。そして、特に若者の皆さんには、当面の間の夜間の外出や飲食などは控えていただきたいと思っております。

昨日発表させていただいた1例目は県外からの方でございましたが、2例目の方は県内在住者ということであります。県民の皆様の命と安全を守るために、感染原因の特定を早急に進めることが重要だと考えております。

まずは保健所を中心として、濃厚接触者や感染経路などの調査をしっかりと行うとともに、感染拡大防止に万全を期してまいります。

診療や検査、感染者を受け入れるための病床の確保等の医療体制を整備しているところでございます。

大変な難局であります。県民の皆様と力を合わせて、感染拡大防止に取り組み、この危機を乗り越えてまいりたいと考えておりますので、よろしくようお願いいたします。

また、報道機関の皆様には、患者の方およびご家族の情報の取扱いについては、個人情報保護の観点から、ご配慮をお願いいたしますとともに、施設や医療機関等への取材はご遠慮いただきますようお願いいたします。私からは以上です。

☆フリー質問

記者

河北新報の岩田と申します。この方は、上山在住ということでよろしいのでしょうか。

知事

はい。

記者

ご家族、一人暮らしとか、どういう生活。

知事

いえ、ご家族いらっしゃいます。お一人暮らしではないということです。

記者

何人で暮らしていらっしゃるのでしょうか。

知事

何人。

医療統括監

ご家族は4人です。

記者

本人入れて。

医療統括監

本人を入れて5人。

記者

わかりました。この症状経過のところですけど、23日に全身倦怠感があって、その後24、25、26は、まだわかっていないということなんですかね。

医療統括監

そうです。この方は、肺炎入院中なので、なかなか詳しいところは途中のところはなくて、発熱が出たのが27日ということで、倦怠感が続いたと思われまますけども、その他の症状については記録上なかったということです。

記者

あと、出勤はいつから、いつまでしていたような形なのですか。

医療統括監

施設のほうに今日3時から直接出向いて疫学調査をしていますので、本人からの聞き取りではそのところはまだ十分聞き取れていないので、今調査中です。

記者

現時点で濃厚接触者として特定されている方というのは何人くらいいらっしゃるんですか。

医療統括監

はい、先ほどのご家族、本人の他に4人いますので、濃厚接触者同居家族4人、それから調理担当の従事者が、従業員が濃厚接触者ですので、この方が、従業員が調理担当4人ということで、合計8人が濃厚接触というふうに現在のところ特定しているところです。

記者

調理担当ということで、お客さんへの接触というのは特にないような形なんですか。

医療統括監

はい、本人からの聞き取りでは、お客様との接触というのはほとんどないということなのですが、現場のほうで今日調査して、本当にないのかどうかというのはさらに調査をしたいと思っております。

記者

わかりました。あと、ここに書いていないのですが、保健所への相談というのはあったのでしょうか。

医療統括監

はい、30日が新型コロナウイルス感染症外来を受診ですので、この往診した先生に相談していたわけですが、治りが悪いということで保健所のほうに相談があつて発熱、27、28、29、4日ですか、4日以上続く発熱ということもあつて、保健所に相談があつて、保健所のほうで保健所管内の新型コロナウイルス感染症外来の病院を受診を誘導して受診してもらったということです。

記者

あと、今のお話だと27から30までずっと38度台の発熱が継続していたと。

医療統括監

お薬飲んで、波はあったかもしれませんが、発熱が続いているということで、コロナの感染症外来に誘導したと考えております。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

共同通信の木下と申します。この「花明りの宿」を利用した方で他県でですね、感染がわかっている方とか、そういった方の確認って取れていますでしょうか。

医療統括監

まだ確認取れていません。積極的にここの宿を使った人から出たという情報は受けていませんが。

記者

わかりました。あとですね、調理をする際にたとえばマスクとか手袋とか、そういった感染防止策というのは十分取られていたのでしょうか。

医療統括監

通常の調理従事者ですので、調理作業の項目に応じて必要なところには手袋をしていると思いますし、必要な時にはマスクをしていると思いますが、それはちょっと現場に行っ
て聞いて、調理従事者に聞いてみないとわかりません。

記者

本人からは特にその装備とかに関して何かお話は。

医療統括監

そういう細かいところまで。

記者

まだ聞けていないですか。

医療統括監

はい。

記者

ありがとうございます。

記者

山形新聞の佐藤と申します。よろしくお願ひします。この症状経過の中でですね、30日に検体を採取し衛生研究所でPCR検査の結果陰性だったと。まず陰性という結果が出て、翌日の31日に検査、もう一回PCR検査をした時、陽性というふうに判明ということなのですけれども、やっぱり一度陰性が出たという結果でも、やっぱり陽性というふうになるというケースというのが今回あるようなのですが、こういったケースというのは今後懸念される部分というのは出てくるのでしょうか。

医療統括監

はい。大変難しい質問をいただいたのですけれども、このケースの、今までですと再検査をしたということがありまして、それは胸部のCT所見でウイルス性の影が疑われるのだけれども、1回やったけども陰性なんだけど、感度が低いからではないかということで再検査をして、というのは今までもありました、数件。今回もですね、今回のケースについて主治医に確認した結果ですけれども、30日の日は別の病院のコロナの外來を受診した時に、肺炎の所見というのは、胸部CTスキャンをやって、ウイルス性肺炎の疑いということで、入院したほうがいいだろうということで、感染症指定医療機関の病院に紹介されたということなのです。それで翌日紹介で肺炎の診断で感染症指定医療機関に昨日のうちから入院しました。入院して病原体の検査を多項目一斉に行えるフィルムアレイ法という保険適用になっているインフルエンザだとかマイコプラズマだとかRSだとか、アデノウイルスだとか、多項目の病原体検査を一斉にできる検査をやったのですけれども、それはすべて陰性だったということが一つ。それで、保険適用になっていないのですけれども、イムノクロマト法という、新型コロナの今研究開発中の試薬を持っているということで、この研究用の試薬で新型コロナの検査を行ったところ、抗体検査で陽性という判定が出たので、これは再検査をすべきだということで、再検査を依頼したということでした。その結果、昨日の夜遅くですけれども、陽性と判明してこの結果に至ったという、そういう状況でした。

記者

だと、すいません。これ、最初入院したというのが先にあつて、その後にPCR検査になったということを考えますと、たとえばこの患者さんが肺炎で入院したということで、たとえばそのまま入院していた場合、最悪の場合、これ院内感染になっていた恐れがあるのではないかなと思うのですが。

医療統括監

そこはですね、感染症指定医療機関でも、一般外来ではなくて、CTスキャンの所見がある両側の肺炎で、「すりガラス陰影」というのですけれども、今回の新型コロナウイルス感染症のいろいろな症例報告の中でよく見られる所見であるということもあって、一般の外来ではなくて、感染症外来、新型コロナウイルス感染症外来でも使っている、感染症外来経由で感染重病床のほうに初めから入院してもらったと。そこで検査をしたということです。

記者

すいません、最後にこの医療機関で特に接触したという方はいないということによろしいでしょうか。

医療統括監

動線も別にして入院していますので、ここは心配ないと思います。

記者

ありがとうございます。

記者

読売新聞の松本と申します。よろしくお願いたします。すいません、2点ありまして、こちらの「月の池」さんなのですけれども、この方が発症された当時、宿泊客というのはどのくらいいたかというのはわかっておりますでしょうか。

医療統括監

いえ、手元の資料には詳しい人数までは、今載っておりません。

記者

調査中ということですか。

医療統括監

はい、そうです。

記者

わかりました。

もう1点が、濃厚接触者への方の検査なのですけれども、こちらは現在行われているのでしょうか。

医療統括監

はい、先ほどの濃厚接触者8人に対して検査を進めていますが、何人できたかというのはちょっとまだ。家族4人はできたと聞いていますけれども、従業員のほう、全員できたかどうか、勤めながらなので。対象にはしています。

記者

わかりました。家族のほうの結果はまだ出ていないですか。

医療統括監

今日、今日検体を取った、先ほど午前中の知事からのお話にあったように、検査結果、入院していて本人への告知と検査結果の告知と説明は本日午前9時以降に行われて、保健所の調査も本人に説明終わった後に10時以降に保健所の調査が許可されていますので、そういう状況の中での調査だったので。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

山形テレビの松田と申します。この男性は、海外・県外の行動歴ないということなのですが、今あった濃厚接触者の方で1か月以内など海外もしくは県外、特に大都市圏に行ったというような話とかっていうのはあるのでしょうか。

医療統括監

調査中です、はい。

記者

わかりました。

記者

毎日新聞の野です。濃厚接触者のご家族、本人含まない4人の中に高齢の、65才以上の方というのは何人いらっしゃいますか。

医療統括監

ご本人が60代ですので、そのご両親がおられますので、通常だと80代とかのご両親がいるのじゃないか、ご両親は80代ではないかと推定されますけれども。

記者

今のところ、重症な症状というのは報告はされていないですか。

医療統括監

ご家族に症状のある人はいないです。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

朝日新聞の上月です。昨日は「軽症」というふうに明示されていましたが、今日は「病状安定」とありますが、「軽症」とは評価できないのでしょうか。

医療統括監

両側の肺炎がありますので、「軽症」ではない。

記者

「重症」とすればよろしいでしょうか。

医療統括監

「重症」ではないです。あえて言えば「中等症」と言うのでしょうか。重症にはなっていないと先ほども確認しましたが、重症ではないと言っていましたけれども、画像所見上は、両側の肺炎があるので画像所見から見て軽症とは決して言えないという状況です。

記者

今後その症状が悪化する可能性があるということですか。

医療統括監

わかりません、それは、私からは。私診察していないので、ちょっとそこまでは申し上げられません。

記者

あと、海外・県外への行動歴が無しというのは、少なくともどのくらいの期間についてのことを言っているのでしょうか。

医療統括監

この1か月です。

記者

あと、この旅館は今回の事態を受けてどのようにする方針ですか。

医療統括監

本日から営業自粛しております。

記者

いつまでかは。

医療統括監

はい、まだ期限は。本日から営業を自粛しております。

記者

これは、県のほうで要請したわけではないということですね。

医療統括監

要請したわけではありません。

記者

昨日の発表の第1例目では、県外で感染したと推定されるというお話がありましたけれども、今回については、どこで感染したか全く検討もつかないということでしょうか。

医療統括監

現時点では、感染経路、完全に感染経路不明と言わざるを得ない状況です。

記者

ただし、1か月以内に海外・県外に出ていないということであれば、県内で感染したと推定できるのではないのでしょうか。

医療統括監

そうですね。先ほど質問ありましたが、従業員の方で先行して感染発症して、軽く済んでいる人がいたのではないかとか、いろいろ。あとホテルですので、県外から来たお客さんと何らかの接触がなかったのかなど、いろいろ可能性を考えればいろいろあるのです。

けど、まだ調査中なので詳しくはわからなくて、今のところ感染経路が不明な状態です。

記者

昨日は県外で感染ということでしたけれども、もしかしたら県内で感染した可能性もあるという意味では、やはりステージはさらに1歩前に進んだと考えられるのでしょうか。

医療統括監

感染経路がはっきりしてほしいので、感染経路の究明を最大限努力して、なるべく、どこかわからないということがないように調査したいと思います。現時点では県内での感染の可能性が高いわけなので、昨日に比べてステージが上がったと言われればその通りかもしれません。

記者

恐れ入ります、テレビユー山形の結城と申します。よろしく願いいたします。濃厚接触者にあたるご家族の年齢構成を加えてお伺いしたいのですが、先ほど実際に発症された方のご両親がいらっしゃるというお話がありました。その他の家族構成、年齢はどれぐらいの方なのか教えていただけますか。

医療統括監

年齢は、ご本人と同じ程度の方と、2,30代でしょうか、お子さんですので。はい。

記者

それは、奥様とお子さんと考えてよろしいのでしょうか。

医療統括監

はい。

記者

はい。あと、もう1点お伺いしたいのですが、そのご家族の方はPCR検査を今日行っているというお話がありました。検査は今日中に、結果は今日中に出ると考えてよろしいのでしょうか。

医療統括監

今日の5時までの検査にスタートできれば、本日深夜になりますけれども、12時までの間には出ると思いますけど。

記者

あと、そのご家族のことで加えてお伺いしたいのですが、ご家族、お子さんの方が1人いらっしゃるとお伺いしましたが、その方の年齢を考えますとおそらくお仕事をされているのではないかなと思うのですが、その職場に関するのですとか、その行動範囲等で今おっしゃっていただける内容のものというのはございますでしょうか。

医療統括監

残念ながらありません。すいません。

記者

その理由というのは、調査中、あるいは今後の状況を見てという。

医療統括監

はい、そうです。家族のほうにも今いっているので、はい。検査結果にしても今日深夜にわかっても、お伝えするのは明日だと思うので、深夜になりますので、明日になってからお伝えして、ご本人にお伝え、ご本人というか当事者にお伝えして、結果はもし陽性であった場合の公表も明日になると思います。

記者

4月に入ったということで、実は学校の再開等の話も出てきている矢先での感染者の発覚ということになっているわけなのですけれども、単刀直入に学校従事者ですとかお子さんの行動に影響が出そうな直接的なお仕事をされているような、そういった方ではないでしょうか。

医療統括監

今のご質問というのは、調理従事以外に何か学校の。

記者

いや、お子さんですとかご家族の方にいらっしゃるかと。

医療統括監

違います。

記者

ありがとうございます。あともう1点お伺いしたいのが、実際に発症された調理従事されていた方が23日に倦怠感を覚えられてから次が27日に発熱と。この間の話なのですけれども、

この間は出勤されていたのか、職務に従事されていたのかを明確にもう一度確認させていただいてもよろしいでしょうか。

医療統括監

手元の資料では、そこまでないですね。27日からは熱が出たのでもしかすると、ですけど、そういったわけなので明確な答えはできません。

記者

あと、もう1点事実関係の確認をさせていただきたいのですが、27日に保健所に相談という形なのか、それとも27日以降保健所に相談した日にちというのは明確にわかっていますか。

医療統括監

保健所に相談したのは30日です。

記者

30日に保健所に相談して、その後すぐに感染症外来を紹介したという。

医療統括監

これは紹介というか、誘導のような形になりますので、何時にどこの、村山保健所管内5つの、今5つありますけれども、その時間帯を設定してやっている病院もあれば、先生の担当のドクターの都合で、その先生の時間に合わせて何時頃とかがあってあるので、保健所のほうで時間とか、5つの病院のうちどこの病院と誘導してやっているのか、その誘導に従って受診したということになります。

記者

あと、もしおわかりになればなのですが、この宿がですね、今月に入ってから海外からのお客様を受け入れられたりしていたのかどうかという事実関係の確認は取れているのかどうか教えていただけますか。

医療統括監

重要なことなので、それは今直接出向いて3時から出向いて調査中であります。

記者

ありがとうございます。すいません。知事にお伺いしたいのですが、先ほど新聞記者さんからも説明というか、質問があったように、1つまた段階が上がったというふうな意識を

おそらくお持ちだと思いますが、これからですね、県内でたとえば体調がおかしいとかですね、そういった状況が起きた場合に市民・県民にはどんな意識を持って行動してもらいたいとお考えでしょうか。

知事

そうですね。やはり正確な情報というものをですね、できる限り知っていただきたいと言いますか、県としても周知、しっかりやっていきたいと思ひますし、報道機関の皆様にもぜひ改めてまた周知をしていただひいて、相談体制もとってありますので、そういったところに相談していただきたいというふうにお思ひます。

やはり、県内でも発生したという事実がござひますので、しっかりともしかしたらそれかもしれないというようにことをですね、意識を自覚を持って行動していただければと思ひます。

また、ただあまりにもですね、不安感が増大してですね、ちょっと混乱と言ひますかパニックみたいなふうにも心配しすぎというようにことにも、過剰な心配・不安ということにもつながらないようにしていただければと思ひます。そして、あまり外出しないというようにことで、いろいろな物の買ひだめとかですね、そういった行動をなるべく取らないで普通通りに生活をしていただひいて、ただ先ほど申し上げたような手洗ひをこまめに丁寧にしていただくとということ、マスク着用を含めた咳エチケット、そういったことはしっかりと励行していただきたいというふうにお思ひます。

また、県外との往来をですね、なるべく控えていただくとこのようなこともぜひお願いしたいというふうにお思ひます。

記者

重ねてお伺ひします。昨日も同じようなことをお伺ひして非常に恐縮なのですが、やはり今回は宿ということで、どうしても県内の中の人だけが気をつけていればよいというふうな場所の発症ではないようにやはり見受けられるんですね。そういった意味で考えると、やはり広域の連携と言ひますか、情報の共有も含めて今後の体制の構築というものも必要になってくると思ひますが、それについて改めて認識を新たにされたこととかがあればお伺ひしてもよろしいでしょうか。

知事

そうですね、昨日は、教習所というそういう業界にですね、要請ということを行いました。今後は、現在のですね、宿泊業界というところで、まずは第一は目の前は、感染経路の特定ということに全力を挙げなければいけないと思ひますが、それとまた併せて、県外とのですね、往来にも入ってまいりますので、その業界の方々ともちょっと相談させていただければというふうにお思ひます。

記者

ありがとうございました。

記者

日本経済新聞の浅山です。今の結城さんの質問にもつながるのですが、かなりこれ、昨日以降ですね、いろんなところでもう行事の中止等というのが立て続けに起こっております。事業者の人もですね、果たしてこの先事業を継続していいのかどうかと、なかなか判断に迷う部分が出てきていると思うのですが、このあたり今知事が県外の往来について業界の方々とも相談させていただければというのは、かなりいろんな面での事業をいったん見合わせていただくとか、そういうかなりこう従来にない踏み込んだことをお考えということなのかどうか。更に合わせてそれについてはですね、非常に日本では私権の制限をですね、行政がなかなか要請できないと、今までも歴史的にあったかと思いますが、なかなか地方自治体で判断ができないのであれば、国のほうでもですね、統一した指針なり法的根拠に基づくものを出してほしいという、知事としての思いがおありなのか、そのあたりをお願いします。

知事

はい。世界の状況ということも報道で承知をしておりますが、日本の場合ですね、今のところやはり東京や大阪といった大都市圏で、60人単位であったり70人単位、昨日は78人とかいう、新しい感染者が発生したというようなことでありましたので、やはりそういう所での外出ですね、自粛というようなことも呼びかけておられますし、人の往来は私は止められないとずっと申し上げてきましたけれども、やはりどういうタイミングでね、政府が決断をされるのかということでもありますけれども、私どもの地方自治体としましては、やはり1人、2人というふうに感染が確認されつつあって、しかもこれからもまた増えるかもしれないというふうな思いは持っております。その感染経路、まずそこを特定して、また県外からというようなこともありました場合はですね、やはり広域での連携ということはずごく大事になってくると思いますし、県内での感染だというようなことになればですね、県民の皆様にもまた踏み込んだお願いをすることになろうかなと思っております。今すぐ政府にどういったことを申し上げるといような、まだその段階ではないのかなと思っております。

記者

度々すいません、読売新聞の松本と申します。すいません、男性の症状の経過の27日の医療機関Aを往診とあるのですけれども、こちらの医療機関Aを往診した際は、男性というのはほかの患者さんとは分けられて診察されたのでしょうか。

医療統括監

これ、自宅に往診ですので。

記者

自宅にいらっしゃった。分かりました、ありがとうございます。

記者

河北新報の菊地と申します。昨日ですね1例目の事例が確認されましたが、その中身について今日新たに分かったことですか、その後の何か進展などで何かございましたら教えてください。

医療統括監

昨日の濃厚接触者、同室で一緒にいたという、熱が出る前まで一緒にいたという2人と、あと教習所の職員、送迎担当した職員含めて5人、7人が陰性、PCRは陰性ですけれども、引き続き健康観察を続けるということ。その他、あと同じ日に教習を開始した47人についても健康観察を続けますけれども、今のところそこからの陽性者は出ていないということ。あとは、接触はほとんどないというか、教習を休止したということで、それぞれの出身の自宅のほうに、接触ない人についてはお帰りになった人が出てきているというそういう情報で、出る時も保健所の指導で、しっかり念のためにマスクをつけて帰るよということ、その対象者の、教習生の名簿と連絡先は持っていますので、帰った先の保健所のほうに何かあったらすぐ相談するということと、置賜保健所に相談もらってもいいですよということ、両方で何かあった時のすぐ連絡をするよということ、帰る人にはお願いしていますけれども、先ほどの濃厚接触の方は帰らずに残っているという状況です。そこまでは分かっております。あと施設の消毒、宿舍の消毒は保健所と一緒にやったということでした。質問ありましたけれど、保健所と一緒にやったということでした。

記者

ありがとうございます。

記者

阿彦さん（補足：医療統括監）もだいぶお疲れだと思っておりますけれども、要は昨日と今日と続けているのですけれども、続いて感染者出ているのですけれども、一番大事な感染経路の特定というふうにおっしゃいますけれども、具体的に濃厚接触者がこれこれいるというのは分かったのですけれども、その後の経路ですよね。今日の場合もだいたい1週間で県外、あるいは海外も行っていらっしゃらないという行動歴はあったということなのですか、実際のところどうやってその感染経路を特定されてくるのかちょっと教えていただいてよろしいですか。

医療統括監

はい。潜伏期が一番多いのは5日から6日ぐらいが一番多くて、最大14日と言われていますけれども、その潜伏期間の中の行動歴の中に、人と人と濃厚に接するような行動歴が、いろんなお店の利用だとかいろいろないかということで調査するわけです。昨日のもそうですけれども調査票を持って行って、カラオケに行っていないかとか、こういう飲食店等で宴会とか何かありませんかとかそういったものを調査しまして、1人だけしか出ていない時は分からないわけですが、その後のいろんな調査で感染者が複数出た時にその共通点があった時に、共通の感染経路、感染源だということで、1人だけの時は当然わかりませんが、昨日のように感染が非常に拡大している所から来た人ということであればそちらで感染を受けたのだらうというということですが、じゃあそこはどこで受けたかというのは、昨日も申し上げましたけれども、想定される潜伏期間に利用した店が複数ありましたので、そことつながりのある関連のある患者さんが神奈川県の方、昨日の感染確認された方が行ったお店を管轄する保健所管内で、他にも患者さんが出ていないかどうかというのを調査しないとはっきり分からないわけなので、そういう調査をするということです。具体的な方法としては、既存のクラスターになっている、具体的に申し上げるのも悪いのですが、仙台の英国式パブがクラスターのような形になっていますけれども、ああいった所を利用していけばそこが感染経路じゃないかと特定できるわけですが、そういった店が今回の感染者が山形来る前に利用している店がないかどうかというのはこちらでは調査しきれないので、地元の保健所に情報提供して、そういった所、共通の施設を利用している感染者さんがそちらで出ていませんかというのが先方の保健所の方に情報提供して調査してもらうということになります。そういう調査について保健所のネットワークというか、都道府県を介して保健所設置市の自治体に全部調査の情報を上げて、それで連携して調査をするというそういう方法になっております。

記者

ありがとうございました。

記者

山形新聞の小田と申します。よろしくお願ひします。知事にお伺ひしたいのですが、今回感染の場所が旅館ということで、観光業の皆様非常に不安に思われているかと思ひます。知事も観光には非常に力を入れているかと思ひますけれども、今後どのように対応していくか、あるいはまた知事の所感を教えていただければと思ひます。

知事

そうですね、観光業界の皆様ですね、本当に深刻な状況になっているのではないかと思

いますし、要望もいろいろお受けしたところであります。今回こういうことが発生したということでもたです、風評被害とかです、そういったことも心配されますけれども、ただ本当に何よりもです、そこで経営者はもちろん、従業員の皆さんももちろん、県民の皆さんの命と安全に関わることでありますので、そこはやはり私も県としてしっかりと要請すべきところはしていかにいけなかなと思っております。そしてその雇用というものを維持していただきたいと思っておりますので、政府のほうの雇用助成金というようなことも、継続助成金ということがあったと思っておりますし、また本当に、融資ということで、無利子の融資というようなことで、期間です、額の緩和、規制緩和というようなこともやっておりますので、そういったこともぜひご活用いただいて、本当に働いている方の雇用も継続し、また当面の間ではありますけれども、何とかして乗り切っていただきたいなという思いでいっぱいです。

記者

もう1点です、夜間、特に若者、若い方にです、外出、飲食、控えていただきたいということだと思っておりますけれども、今回県内で感染された可能性が高いという中でです、若者に限らず例えば県民皆様にです、夜間外出、飲食等を控えていただきたい、中止してもらいたいというような呼びかけを改めてするような考えはあるか教えてください。

知事

そうですね、今回県内で県民の方が発症したと、発生が確認されました。それでその方自身の行動なのか、あるいはその周りの方の行動といたしますか、要するに感染経路です、それをできる限り特定して、もしかしてそういう方がです、ご本人でない方で、夜間の飲食というような所に、先ほども話出ましたけれど仙台のですね、そういった所に行ったりとか、あるいは東京に行ったりとか、そういうようなことも可能性としてはないわけではありませぬので、そういうところでもしっかりと特定をして、それでそういったことがある場合には、やはりもう、しっかりと夜間のようなこともです、申し上げていかなければいけないかなというふうにも思っております。まず特定が大事かなと思っております。

記者

特定してから考えていくということですね。

知事

はい。そうですね。

記者

分かりました。ありがとうございます。

記者

河北新報の岩田です。濃厚接触者の方の、調理担当の方というのは全員男性なのでしょうか。

医療統括監

性別まで分かりません。

記者

分かりました。お子さんというのは息子さんなのでしょうか。

医療統括監

性別分かりません。

記者

分かりました。あと最初の往診の時は、何か、風邪だとか診断というのは出ていたのですかね。

医療統括監

抗生物質等を処方していますので、感染症と診断したのだと思いますけれど。

記者

感染症。

医療統括監

はい。その当時は肺炎とまではみていないのだと思いますけれども。

記者

あと昨日のその検査結果というのは0時とかそのぐらいに、結果出たということなのですか。

医療統括監

昨日9時過ぎだったと思います。

記者

知事にお伺いしたいのですが、昨日は感染の一報、紙でまず出してですね、2時に会議を開いて3時から会見と。で、今日は当初県民へのメッセージという形で臨時会見の中で最後に発表されたのですが、昨日の形がスタンダードな発表の方法なのかなと感じて

いたのですけれど、今日の急遽発表された理由というのはどういう思いでやられたのかというのを。

知事

はい。昨日も県民の皆さんへの願ということでも申し上げさせていただきましたが、その情報がですね、全ての方に伝わったわけではないだろうというふうに思われます。何回もですね、やはり申し上げて、そして県民の皆さんにお一人お一人にしっかりと届くようにというような思いを込めて、今日の午前中の、あれは普通ですと年度初めの職員訓示の内容を大体繰り返していたのでありますけれども、そうではなく、昨日のこと、また紹介、説明をさせていただいて、改めて、再度の願というようなことで、発信といたしますか、何回も何回もやはり、県民の皆さんに願いをして、しっかりと気を引き締めていただきたいなという思いで今日もお話をさせていただきました。

記者

あの場で新たな感染者が出たということを発表したのは、なるべく早く県民の方々に伝えておいたほうが良いという、知事の口からですね、そういう。

知事

そうですね。やっぱり今朝になってそういう結果が出たけれど本人にはまだ話していないので、ご本人に9時に主治医の方からお話をして、それから保健所から聴き取りをして、というような順序になりますと。それから皆さんに発表というような段取りではあったのですけれども、まずでも2例目がもう県内在住というところまでちょっと聞き及んでおりましたので、まず発表といたしますか、お知らせできるところからしておいたほうがよろしいかなというふうに思いまして、お話をさせていただきました。

記者

ありがとうございます。それで今日の3時から職場のほうに行っていると。聴き取りをすればですね、出勤の有無とかですね、新たに濃厚接触が疑われるような方とかというの、もしかしたら出てくるのかなと思うのですが、そのあたりの発表というか、随時知りたい情報であると思うのですが、どういう形で考えていますか。

医療統括監

特に改めて記者発表という、こういう場ではなくて担当の、例えば薬務・感染対策室のほうにお問合せいただければわかる範囲で、本日わかる範囲では情報提供できると思いますが。

記者

すみません、たびたび、日経です。先ほど、山新さんの質問のお答えの中でですね、その中で、知事が旅館の、観光業の皆さんに、県としてしっかりと要請すべきところはしないといけないと、県民の命に関わることなのでということだったのですが、これ、実際に県内でもかなり感染している、また外から持ち込まれている可能性が高いという場合は、いわゆるそういう県外とのですね、往来を、より強い形で自粛してもらおうとか、自動車教習所のように外から来る方の受入れは自粛してもらおうとか、そういうことまでもお考えということなのでしょうか。

知事

そうですね、ただでさえ今、宿泊業界、観光業界がですね、大変苦しい思いをされている状況でありますので、やはり、大変私としてはつらいところではありますが、ただ、やはり県民の安全に関わるというようなことの場合には、やはり何らかのことを申し上げていかなければならないのではないかと考えています。どういうことを申し上げていけるかは、これから内部で議論して検討したいというふうに思います。

記者

今のは、感染経路がわかった段階で、という。

知事

そうですね、感染経路がわかった段階というのが、それは、先ほど申し上げたのは、県民の皆さんに、若者だけでなく県民の皆さんにも外出自粛を要請するかどうかというようなところで、感染経路がわかってからと申し上げたかと思えますけれども、その観光業界の方にどういうことを言っていけるかということは、ちょっとその時期も含めて、今から内部で検討させていただきたいと思います。

記者

なので、県としてしっかりと要請すべきところはしないといけないというのは、より踏み込んだ形で県民の皆さん自体に、その県外との、若者だけではなくてですね、県民全体に不要不急の外出を抑制するとか、そういう意味ですか。

知事

はい、そうですね。県外との往来についてはもう何度か要請をしてまいりましたけれども、外出、米沢が確か外出自粛というようなことを市長がですね、要請されたということは報道で知っておりますので、私が県民の皆さん全員に、お一人お一人にそういう外出自粛までお願いするかどうかというのは、やはり今回の感染経路特定の内容を見てからにしたいというふうに思います。

記者

ただ、今の段階だと、従業員の方が働いていたかどうかはまだわかっていないのですよね。そうしますと、なんだかかなり時間がかかりそうな感じもするのですが、何日ぐらいでわかるものなのですか、こういうのは。

知事

いや、すぐわかるでしょう。

医療統括監

今日、3時から行って調査している結果というのは、5時頃までは調査していると思えますけれども、ですから6時以降なら大丈夫かな。わからないかな。

記者

じゃあ、それぐらいの時間軸ではわかるということですね。

医療統括監

それを含めて、一度問い合わせいただければ。

記者

すみません、たびたび。共同通信の木下です。今の、今日の6時以降にはというのは、その勤務状態とかそういった状況についてですよ。感染経路の特定というのは、遅くともいつまでとかですね、目処は立っていますでしょうか。

医療統括監

それは今日もいつ頃までとは申し上げられないですね。調査の状況によりますので、今日はわかりませんね。

記者

今のいろんなお答えを聞いていますと、感染経路が特定されたら動くとかですね、特定されてから対応を考えるというような回答が目立つのですけれども、この経路がですね、いつまでたっても特定が不能な場合もあると思うんですね。これが決まらないと動けないということだと、その間に感染拡大しかねないと思うのですが、スケジュールの間隔というのは、どういうふうになっているのでしょうか。例えば、何日までに特定がきかなければ、この段階でこういうフェーズに移るとかですね。

知事

感染経路がわからない場合には、その感染経路不明ということがわかった時点でやはり考えなければいけないと思っています。いつまでも何もしないということではないです。むしろ感染経路がわからないほうが恐ろしいわけでありますので。

記者

その区切りを、どの段階でつけられるようなものなのですかね。マニュアルみたいなのはあるのでしょうか。

知事

いや、マニュアルはないです。初めてのことなので。ただ、現場で調査しておりますので、それを、その推移を見ながらということになるかと思います。

記者

あとですね、今朝の段階では若者に対しての外出自粛というふうに要請をされていて、今は県民全体にも、という話に変わってきつつありますけれども、そもそもその若者に対して、限ってですね、その外出の自粛をというようなその根拠とか考え方というのは、どういうふうにして出てきたものでしょうか。

知事

はい。1例目の方がですね、来県される前に複数の夜間の飲食といいますか、さまざまな形態での複数の方と一緒にそういった行動を取られたということを聞いております。それから東京とかですね、ほかの大都市圏ではありますけれども、やはり夜間のことといいますか、夜の「接待を伴う飲食」という言葉を使っておられましたけれども、そういうところだともう特定できないといいますか、ただ、そういうところに行った方で感染が確認されているというようなこともあって、若者ということに対しての要請が出ております。

また、仙台でもですね、そういう例がございまして、仙台で夜の飲食をした方が秋田に戻られて秋田で感染が確認されたという例もございます。

また、本県の、これは検査で陰性となったのですけれども、やはり同じところに行って帰って来て、心配だからというようなことで検査をされた若者もおります。そういったいろいろなことがあって、根拠となっております。

ただ、本当に申し上げたいのですけれども、若者が行動範囲が広がったり、行動力があるというのは、私は本当に長所であり、美点だと思っています。平時でありましたならば、本当に良いことなんです。ただ、こういう感染症というようなことになってきますと、やはりその若者本人が軽症であっても、周囲に高齢者がいたり、慢性疾患の人がいたりですね、そういった方々にも影響が及ぶのだということを知っていただいて、こういう場合

はこうだというような、ケースバイケースというようなことも自覚していただける、そういう学ぶ機会にしていいただければ大変ありがたいというふうに思っております。

記者

すみません、1点、念のための確認ですが、感染、60代の男性の方は、話はできるということでしょうか。

医療統括監

はい。今日ここに来る前に主治医に確認しましたが、トイレ等には自分で歩いて行かれるということでした。

記者

じゃあ自分で動けるようなぐらいの症状ということですか。

医療統括監

はい。

記者

ありがとうございます。